



鳥取こども学園 学園だより

第 30 号

2011年12月1日

○発行
鳥取市立川町5丁目417番地
鳥取こども学園後援会
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodmogakuen.or.jp/>

○振込口座
郵便振替 01490-9-9106
題字 尾崎悌之助

メリークリスマス

「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ」(ルカ・2・14)

鳥取みどり園 園長 山本恵子

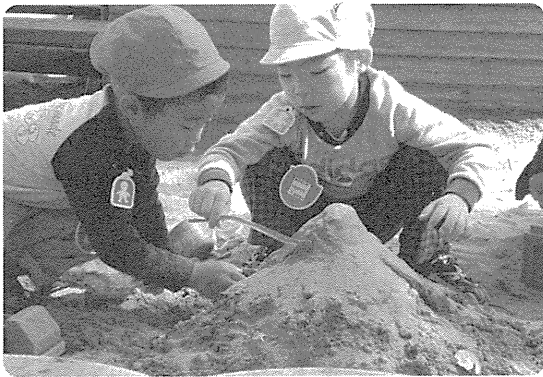
今年もまた、クリスマスを迎えました。

イエス様の誕生を子どもたちとお祝いしたいと思っています。

園長に就任して、早や一年九ヶ月。園の長として外に出る機会が多くなり、責務の重さを痛感しております。

今、保育園では、創立者の藤野とり園長先生が昭和44年に増築された三歳未満児棟園舎の老朽化が進み修理を重ねてきましたが、県の補助金事業に、急拠申し出を申請して全面改築をすることになりました。建築プロジェクトを作り、園舎の設計プランを再三検討し、大枠が出来ました。今年度の事業のため、

保護者の皆様や法人、地域の方々には、これから多大なる「ご不便やご迷惑をおかけすることと思いますが、幼ない子どもたちのため、地域に開けた園として根ざしていく上の改築ですので、何とぞご理解とご協力を賜りたいと思っ



おります。

平成二十年度保育所保育指針が改訂され、社会に於いて、保育所が果たす役割に伴う保育士の専門性への期待が高まり、責任が大きくなってきました。しかしながら、保育状況は、大きな変化に直面しております。少子高齢化、家庭における経済的不安が子育て不安や虐待問題などの引き金になる深刻な状況を引き起こしています。又、保育現場では、「落ち着きのない子」「年齢

相応の生活習慣が身についていない子」「喜怒哀楽を表さない子」「食物アレルギー」や「個別支援の必要な子」等の「気になる子ども」が増えました。そんな中私たちは何をしていくべきなのかを考えたところ、保育の中では、まず子どもを知ることから始まり、その子の育ち、発達をみすえた環境をつくっていく

く。そして、保育士は共感し合える感性をもって子どもと関わり合い共に育ち合っていないといけないと思いました。

乳幼児期は、生活と遊びが中心であり、遊ぶ力、生活する力を育てたいと思っています。生活力が低下し、やってみようという力が弱く、自分に出来そうもないことは初めから挑戦しないし、一度失敗したらもう先に進もうとしない子どもが増えてきています。遊びの中で十分に五感を使って、手・指・身体で遊ぶことが大切であり、保育者が仕掛けていきます。

自分の目・耳で見聞きし頭で考え、種々のことに興味をもって挑戦し、思考力・言語力・想像力・創造力・コミュニケーション力・自己コントロール力が養われ、生きる力の素地が出来、学童期からの学力につながるっていくことではないかと思っています。

今、政府の検討している新しい制度「子ども子育て新システム」は、二〇一三年より施行されようとしています。この制度が未来を担う子どもたちにとって、最善の利益の保障が出来、保護者にとっても保育者にとってもより安心して生活が出来る制度になることを願いたいと思います。又、今後社会の変革を感じながら、子どもたちの心の声に耳を傾け、感性豊かな健全な人間づくりの基礎をつくるよう努めていきたいと思っています。

法人本部

常務理事
藤野 興 一 記

① 鳥取みどり園乳児部改築事業は二〇一一年度着工・二〇一二年年度完成予定で本格始動しました。定員を十名増。

子ども安心基金による補助金事業が今年限りであることから、懸案であった保育所乳児部の全面改築を急ぎ、今年度事業とすることとしました。

西万・赤山建築企業共同体に設計管理を委託。鳥取市補助金を得て、智頭の木材を使った防火建築とし、一三六、一一三、八〇〇円の工事費を見込んでいます。二月から旧園舎解体、三月着工、十月完成の予定です。ご支援ください。

② 厚生労働省「社会的養護の課題と将来展望」(二〇一一年七月)を発表、施設の小規模化、高機能化、家庭的養護促進、里親制度促進の方針を明示。大きく前進。二〇〇七年五月より二〇一二年五月まで、二期四年にわたって務めてきた全養協副会長をこの度退任しました。同時に「社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会」委員も退任しました。皆様の「支援に改めて感謝申し上げます。

お陰さまで、自立援助ホームの現員払いを定員払いに戻すこと、児童養護施設や乳児院、情短施設でも、小規模グループケアホーム加算を六ホームまで認める

こと、地域小規模児童養護施設の条件緩和など、家庭的養護促進、里親制度促進へ大きく舵を切り前進させることが出来たことは、この上ない喜びであります。感謝です。

③ 二〇一一年四月からスタートした地域小規模児童養護施設「子どもの家いろどり」、里親支援機関連事業「里親支援とつとり」の運営も順調に推移しています。

施設的生活単位の小規模化と里親開拓は社会的養護改革の要です。鳥取こども学園は、「社会的養護の課題と将来展望」(二〇一一年七月)のモデル施設としての役割を担っていると言っても過言ではありません。一層のご支援をお願いします。

④ 来年度に向けて

- ・鳥取養育研究所の設立を準備しています。

- ・鳥取こども学園乳児部の小規模グループケアホーム増改築を計画しています。

- ・浜村に「児童養護施設等アフターケア事業ひだまり」及び「若者サポートステーションとつとり」と連携した就労支援事業(作業所)の開設を検討しています。

- ・教育と福祉の一層の連携を目指して教育棟増改築を市教委、県教委、子育て王国推進局に要望しています。

⑤ 子育て王国鳥取県に日本一の社会的養護体制を構築しようではありませんか。

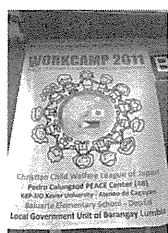
児童養護施設

鳥取こども学園

ワークキャンプは、日本の施設で生活しなければならぬ子ども達、特に社会への自立を目前にした子ども達が、立ち止まり自分を見つめ、自分探しをし、育った文化が違う海外の子ども達との国際交流を通して夢と希望をもって社会に巣立つていくための準備の時とするため開催されました。テーマは「日本とフィリピンの青少年と交流と分かち合いを通して、子ども達の福祉と成長に寄与する」です。そのフィリピンワークキャンプに、ひまわりホームの高校生男子が参加しました。

ワークキャンプで学んだこと

高2 R・M



僕がこのワークキャンプに期待していた事は日本とフィリピンの違いを理解するということでした。フィリピンにいく前に本ですごく貧困ということを知っては知っていましたが、やはりそれがどういふことかは、実際に経験しないと分からないと思います。今回のキャンプに参加しました。最初宿舎に行ったときは、お湯はでないけどそんなに貧困というレベルかと思いましたが、実際にフィリピンのホームステイに行き、その

違いがよく分かりました。ホームステイ先のMさんの家に行く間、周りの風景が変わり、日本で見えるような家が無くなり木を組んだだけの家を見て「え?こんなので大丈夫なの?壊れたりしないの!」と思いました。家に入りMさんの家族と挨拶をしました。家を見渡すと日本にはあるシャワーが無い。Mさんに「お風呂に行きたい。」と英語で言ったら着替えを持っていくと言われ「えっ!お風呂って家の中に無いの!」と思いながらMさんについていくと、少し離れたところでお湯を貯めているところに着きました。桶でお湯をすくってかけると聞きました。また、トイレが無くて「どうするの?」と聞いたら、隣の家に借りに行きました。夜になるとMさんの家族と一緒に、折り紙をやったり、こまをやったりと遊びました。考え直してみるとやはりお風呂やトイレが無いのは不便だし、日本は物に関しては、フィリピンよりすごく裕福だと思いました。ですが、日本の家族で夜に集まって遊ぶというのは、そんなに無いと思います。トイレを貸してと言われるという事も無いと思います。そういうことを考えると、日本はフィリピンより人間関係や心の点では貧しいと思います。「物の貧困と心の貧困は違う」と日本人キャンパーの人が言っていました。心と物、貧困化してはいけないのは心だと思っています。たとえ物が減っても助け合え

はある程度フォローできると僕は思いますが。そのことが学べただけでも、今回のワークキャンプは僕にとってためになりました。

今回のワークキャンプでとても多くのことを学びました。その中でも一番学んだことは挑戦することの大切さです。海外に行くことが初めての経験で、さらに英語の成績はそこまで良くなく、そういう状況でフィリピンに着くと同時にいざなりホームステイが決まったと知らされたときには驚き、ただでさえ英語が分からないのに一人でホームステイをするなんて、自分が言いたいことが理解してもらえないか、ホームステイ先の人の言いたいことが理解できるか、また英語がまったく分からなくてホームステイ先の人を嫌な気分にはさせないかなど、ちゃんとコミュニケーションが取れるかと不安でした。パートナーの発表があり、僕のパートナーはMさんでした。日本語は通じないなら英語でしゃべるしかないと思います、何か話そうとしましたが良く考えれば英語が分からないので、どうしようと思っただけに、Mさんが英語が書いてある紙を持ってき



て僕に話しかけてきました。僕は「英語は分からないからな。」と思っていたら、まず英語を読んで僕に話しかけた後に紙を見せてきました。英文の隣にはローマ字で日本語が書いてありました。コミュニケーションのとり方が分からず悩んでいたのは僕だけじゃなかったのだと思いました。しかし、Mさんは僕とは違って一生懸命コミュニケーションをとろうとしていて「僕は何もしてない。」、そう考えたとMさんがすごい人に見える。僕もがんばってみよう、僕の知っている数少ない英単語を言い、向こうが分かってくれるとうれしかった。分からない時にはジェスチャーで挑戦しました。僕の知らない英単語が出たときは、前後に言った言葉で考えると結構伝わり、それがまた楽しくなり、気がつくとなんとなく何が言いたいのかわかるようになりました。最初は英語が分からないと言いついては、本当は自分から話しかけることをしていませんでした。いざ声をかけてみると分からないところもありましたが、少なくとも声をかけようとしてないときよりも、コミュニケーションが取ることができました。コミュニケーションは、「取れるか」「取れないか」ではなく、「取る」とするしかないか」と思います。今回のキャンプに参加していなかったら、挑戦することの大切さにも気づけなかったと思います。今回参加できてよかったです。

このワークキャンプは自分の、「物があつた前」という常識を変えられて、またいろいろ得ることができていい経験になりました。さらに、このワークキャンプで僕は、沢山の自然に触れて、自然に触れることが好きかもしれないと分かり、自分としては得るものがとても多いものになりました。このような機会がまたあつたら参加し、今回は見つけられなかったこと新しい目標を決め、今回以上のものが学べるようにしたいと考えています。

乳児院

鳥取子ども学園乳児部

院長 田中 佳代子

乳児部は、九月まで入所十一名で全員一歳を過ぎていましたが、十月に入ってから二名新生児が入所し、現在十三名となっています。家庭的養育をいうことで、開設以来、各ホームに冷蔵庫やレンジ・炊飯器また布団ダンス等と徐々に家具も増えて、こどもたちの居住スペースが狭くなつてきています。来年度一ホーム分を移転増設する方向で現在検討会を進めています。

☆くるみホーム☆

お弁当を持って公園に行きました!! みんなで楽しかったよ♪



ホーム行事で但馬牧場へ行ってパチリ!!

☆かりんホーム☆



☆どんぐりホーム☆



ぶどう狩りをしました。甘くておいしいぶどうをたくさん食べました。

『育てたように子は育つ』

かりんホームホーム長

河津 由幸

「花を支える枝、枝を支える幹、幹を支える根、根は見えないんだなあ…」

これは、私の好きな相田みつをさんの書の一つです。まさに、私たち職員の仕事はこの書の通りだと思いました。根っこをしっかりと根付かせるために、子どもたちに愛情を注いで心豊かに成長することを願い、開花していくことを信じていものです。

また、子どもたちのありのままの姿をそのまま受け入れる事は、条件をつけない子どもへの最高の愛情表現である…。こつこつ愛情を注ぐことができれば、子どもたちは必ず生まれ持ったものを豊かにし、成長していく事でしょう。子どもたちにとって、私たち職員もほどよい「清き水」でありたいと思います。

情短施設

鳥取子ども学園希望館

入所部門

こども・職員より文章、絵などを寄せてもらいました。

わたしは、小学校四年生の時に希望館にきました。

最初は、先生に迷わくをかけたたり、ホームの子とケンカすることもありました。

四、五年生は、分教室に通いました。六年生になってからは、本校に通っています。

勉強もがんばり、友達付き合い合いもがんばっています。「ケンカをした」「きらわれたかもしれない」「不安なことがある」、先生達も相談につてくれ、仲の良い友達もできました。

中学校では、部活、勉強、人間関係の両立をがんばりたいです。希望館を「退所」する事も目標にして、ホームでの生活、学校での生活を頑張りたいです。

決して「かんべきな人間」にはなれないし、世の中に「かんべきな人間」は存在しないと思います。だから、「今」の私にできることは、後悔しないように努力し、「これから」の自分につなげていくことだと思っています。

のぎくホーム O・H (小六)

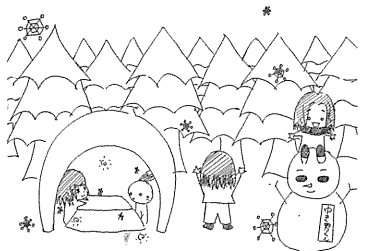
◆五年生になって

ぼくは、四年生のころはあまり経験がなかったけど、五年生になって宿泊学習や運動会とかもやりました。宿泊学習では、砂丘に行きました。運動会は、リレーもがんばったし、初めての組体操もしました。組体操ではむずかしいピラミッドとかサボテンもやりました。宿泊学習と運動会はともにもいい思い出になりました。またいろいろなことをしたいです。

こぼとホーム F・D (小五)

しらゆりホーム

N・M (中二)



M・S (中三)

◆万里一空

こぼとホームホーム長 山名康之

「万里一空」この聞き慣れない言葉を、今年大関に昇進した琴奨菊によって、大勢の人が耳にしたと思います。意味は：

よろしければ、調べてみてください。色々な解釈があるようです。

こぼとホームは今年小五、高二の七人で生活しています。ホーム職員のみならず、希望館職員が一丸となり、万里一空を求め、日々こども達と向き合っています。

わかばホーム保育士 中村 ちあき

今年の四月からわかばホームでこどもたちと一緒に生活している保育士の中村です。今年のわかばホームは小学生三名、中学生三名、高校生一名、職員三名でスタートしました。

学校や部活で頑張っている姿を見て感動したり、一緒にテレビを見て笑ったり、話をしながらゆつたりと過ごしたり、時にはこどもとぶつかることもあります。毎日一喜一憂しながら、わかばでの生活に奮闘中です。

ホーム行事では、USJにいく計画を立て、子どもと同じように楽しみで待ち遠しく、話をしながらワクワクしています。

今年はホームに受験生が三名。本格的に受験モード突入!!それぞれの夢や目標に向かって頑張っています。職員も支えになれるように精一杯努めていきたいと思っています。

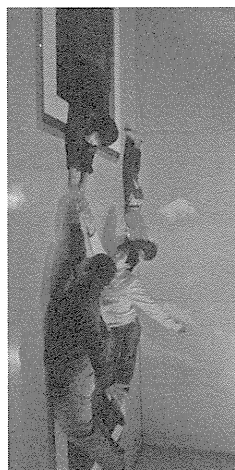
夢に向かって一直線!

頑張ろう!!わかば!!

通所部門

はじめまして!希望館通所部門「てくてく」です

昨年度までは高校生年齢の子どもが対象でしたが、今年度から装いを新たにしました。様々な理由で学校に通うことに困難がある小学生から高校生までを対象とし、名称も「てくてく」と親しみやすい名前にしています。てくてくの活動では、学習、スポーツ、調理、時には課外活動をして季節を楽しんだり、いろいろなグループワークをしています。夏の海水浴では、「初めて海に入った!」「もっと遊びたい!」と初めての体験を楽しんだり、様々な経験を積みながら活動しています。「てくてく」では、まずは居場所として通えるようになることを支援の中心としています。その上で、小集団の中で人間関係を学び、最終的に、学校に通い、集団の中で過ごせるようになることを目標にしています。今年度から新体制になり、まだまだ「てくてく」を作っている最中ですが、よろしく願います。



保育所

鳥取みどり園

地域子育て支援

センターの大切さ

支援センター 山根 愛

今年度、子育て支援センターの職員として勤務させていただいています。

半年が過ぎ、親子共々顔見知りになり、最近はおとも同士名前を呼び合ったり、一緒に関わって遊んだり、また小さいお友だちにそと玩具を貸してあげる微笑ましい姿も見られ、日々子ども達の成長に嬉しく思う毎日です。

今、親同士の出会いと交流の場であり、子ども達が自由に遊び関わりあう地域子育て支援の大切さが求められています。先日、子育て支援の講演会に参加させて頂き、その中で利用者の中には「話し相手が欲しい」「子育ての仲間を作りたい」「子どもの友だちをみつきたい」等様々な理由で利用されている人もいます。常に利用者に寄り添い「子育ては迷ってもいいんだよ」



と伝え、一緒に選んだり迷ったりする事に付きあっていたり欲しいと話されました。私は、子育て経験をした時に話す相手がいなくて悩みも緩和されたので、改めて大切さを感じました。だから、温かく笑顔で迎え入れ、親子にとって居心地の良い場、楽しく過ごせるような場として、また、良き話し相手、相談相手、遊び相手として「ここにきて良かった」と思ってもらえるよう、支援者としての自分への気づきを深めていきたいと思っています。

子どもたちと共に

保育士 山本 裕美

みどり園の未満児クラスでは、育児担当制による生活と遊びを取り入れた保育を実践しています。私が担当している一歳児クラスでも、少人数のチームにわかれて生活しています。そうすることで、四月当初は、泣いていた子どもたちも今では、すっかり慣れてまるで小さな家族のような雰囲気の中で、毎日笑顔で過ごすことができるようになりました。また、少人数で過ごすことで、トラブルが少なくなったり、担当保育者には、しっかりと自分を出して、愛着関係を築くことができます。

先日は、良い天気の中、秋を探しに散歩へ出かけました。途中、赤や黄色に色づいた葉っぱや柿の木を見て、「はっぱー」

「きー(柿)」と指を差して教えてくれたり、歩行が不安定だった子どもたちもしっかりと足取りで、最後まで歩くことができるようになったりと、「大きくなっただなあ」と改めて子どもたちの成長を感じることができました。そんな子どもたちも、今後ものびのびと心豊かに育つてくれるよう、一人ひとりを大切にそして、私自身も子どもたちの小さな成長に感動していく中で、日々精進していくけるよう心がけていきたいと思います。



鳥取みどり園行事

4・1	進級式	7・4～8	参観日週間
4	第61回入園式	7	七夕まつり
22	春の親子遠足(こども園)	12	プール開き
	保護者会総会	26	卒園生の集い
25	蟬虫・尿検査	30	納涼祭(保護者会主催)
5・26	健康診断(全園児)	8・30	プール納め
6・5	鳥取みどり園バザー	9・10	仕事会
	(保護者会主催)	15	祖父母との集い
10	時の記念日(時計店見学)	16	風紋館ディスプレイ「敬老のつどい」に出演(5歳児)
25	参観日(保育参観・座談会)	10・2	運動会
		7	交通安全教室(保護者会主催)
		17	蟬虫・尿・便検査
		19	鳥取市「かがやき実践講座」公開保育・鳥取県訪問指導
		27	健康診断(全園児)
		11・6	鳥取市「児童文化祭」(5歳児)
		11	徒歩遠足
		15	焼きいも大会
		15	感謝祭
		15	参観日週間
		12・17	クリスマス祝会
		1・14	参観日
		2・4～6	作品展
		9	交通安全教室(保護者会主催)
		11	仕事会
		3・3	ひなまつり
		7	お別れ会
		8	平成24年度入所児説明会・身体検査
		17	第61回卒園式

診療所

「こころの発達クリニック」へ

来てくださる皆様へ

精神科医師 池 成 孝 昭

診察の後、カルテを書きながら、考えました。

「私たちが診察室で最初に来ること何だろう？最初に来ることを私はしていただろうか？」

クリニックでの診察においでになるかたがたには、皆さんそれぞれに、それまでのさまざまな物語があります。そしてそれらの物語は、一つとして同じものはありません。

困った状態について、「ご本人が一番感じて、悩んで受診される方もいらっしゃるが、ご本人よりも、むしろ周りの方が悩まれた結果、「ご本人を説得されて一緒に受診される場合もあります。

困った状態のために生活に支障を来している方もいらっしゃるが、困った状態を抱えながらも、じっと内に抱えて、外に出さ



ない方もいらっしゃいます。

それぞれのかたが、ある人は苦しみ、ある方は悩み、またある人は傷ついて、またある人はさまよい続けた後、ようやくクリニックのドアをノックしてくださったわけです。

そうやって、さまざまな道をたどりながら、この「こころの発達クリニック」へおいでくださった皆様にとつて、私たちが最初に来ることは何だろう？最初に来ることを私はしていただろうか？わたしが「最初に来ること」はじめても、だれにでも、ただ一つ、初めて会う人をお迎えすることです。

ようこそ いらっしゃいました
今日 お会いできてよかったです。
お話を聞かせていただけますか？

いままでお会いして来た方に この様にお迎えできたでしょうか？

これからお会いするであろう方に、この様にお迎えできるでしょうか？

おそらく直接言葉でこのように言うことはありませんが、この思いを忘れず皆様をお迎えしたい、とカルテの前で考えています。

現在「こころの発達クリニック」は川口院長以下、非常勤の私を含めて総勢4

人のスタッフで診療を行っています。

診察をお待ち頂いている方には大変申し訳ありませんが、お一人ずつ時間をとつてお話を聞かせていただくために、診察は予約制をとらせていただいております。このため初診の方には、受診までしばらくお待ち頂いている状態が続いております。ご不便をおかけしますが、なにとぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

児童家庭支援センター

子ども家庭支援センター「希望館」

◆子ども支援センター「希望館」は、地域に根ざした外来相談機関として、子ども家庭相談を丁寧な受け有効に支援する相談活動を心がけています。

■二〇一一年は元日より、鳥取県内は大雪に見舞われ、そしてこれから春を迎えようとする時に東北で大震災があり、今年はどうなるのだろうか？と心配していましたが、季節はあつという間に過ぎていき、気がつく支援センターも大きく様変わりしました。新所長、新人職員、新体制(機関、配置など)、そして新しい命も…。

人との出会い、関わりというもの、色々な形があり、様々な視点、意見を持ち寄

り、支援センターは今もなお進化し続けています。

(山田・セラピスト)

■私の好きな歌に「頑張らないためにも頑張らないといけないなんてわけがわからない」というフレーズがあります。支援センターではたくさん頑張っておられる方の声を聴きます。頑張っておられる方は頑張っていることを認めてください。「よく頑張っているね」「そんなのかな？自分はそのなかに頑張っていないよ！もっと頑張らないと」、「頑張つて！」「こんなにやっているのに、まだ頑張らないといけないんだよね」。だからこそ、ふとこぼれる「疲れた」に言葉じゃなくて耳を傾けてあげてください。

(岸田・ソーシャルワーカー)

■何のために生きているのか分からない、自分が無くなってしまいそう、周囲の目が怖い、誰も分かってくれない。

どなたにも取り巻く状況があつて、感じるものがあつて、これまでの人生が必ずあります。それを振り返るかどうかは自由です。ただ、あなたは今の世、歴史上、未来永劫あなた一人しかおらず、その表現はあなたにしかできないものです。しかも、あなたでさえ同じ表現を二度はできない。すべては表現、いつも新しいと思えば、いっしょに居ることは、どれ

だけ価値があるのでしょうか。

出会ってから時間が経てば、気がつけばここまで来ましたね、こんなことがありましたねと、ふとした話のなかで、時間を共有していたことに気付かされます。そこにはふしぎな喜びを感じます。

深い森で道無き道にひとり迷ったり、分かれ道に差しかかってどちらに進むのが良いのか悩んだり、歩き疲れて立ち上がるのが嫌になったときには、お電話いただきました。

(平岡・セラピスト)

◇来所相談 平日 午前九時～午後六時

◇電話相談 平日 午前九時～午後十二時

(平日 午前0時以降・土日祝日も緊急時は対応します)

里親支援とっとり

里親委託等推進員 吉田 信彦

里親さんや、里親になりたい方のために様々なお手伝いをする里親支援機関「里親支援とっとり」が開所し、半年が経過しました。

「里親支援とっとり」は、里親さんに関する様々な研修の実施・里親制度の普及啓発・里親さんが相互交流する機会の設定・鳥取県里親会事務局の運営・里親委託の促進などの業務を、各里親さん個

人・里親会・県の業務担当員・各地区児童相談所・各児童福祉施設などと協同して行っています。これまで県庁や児童相談所が行っていた業務を、民間の法人が担ったことで、より一層身近な形で里親さんのお手伝いをさせていただいています。

これからの児童養護は、里親さんと児童養護施設が、これまでより更にがつちりタッグを組んで充実させていくという形になります。私自身、業務を通して、大勢の里親さんにお会いし、様々なことを教えていただいています。どの方も人間味にあふれ、子どもの養育に対する熱意を感じます。

里親支援機関事業は、全国的に見てもまだ始まったばかりの取り組みです。まだまだ勉強不足ですが、多くの方々に育てていただきながら、里親委託推進に取り組んでいきたいと思っています。

自立援助ホーム

鳥取フレンド

寮長 山中 友子

平成二十三年度鳥取フレンドは 男子四名女子二名でスタートし、四月に男子一名退所、六月に女子一名入所(一時保護)、九月に女子一名退所し女子一名入

所(一時保護)、十月に男子一名入所(家庭裁判所からの試験観察補導委託)、十一月に男子一名退所し、現在の在籍者は女子三名男子二名で六名です。

長い求職活動の後やっと決まった農作業の仕事を経て頑張っている人、アルバイトで生計を立てているけれども、思うように貯金ができず、自分の中の欲と闘っている人、正規雇用だが、「貯金をしている」と言いつつ出来ておらず、改めて衝動買いをする自分に気付いた人、職業訓練校を経て資格を活かした仕事をしたかったが、年齢で採用されず、他のアルバイトを始めた人、アルバイトを二ヶ所掛け持ちで頑張っている人等、それぞれが自分のできることをしながら、そして悩みながら生活を共にしています。すぐに結果は出なくても、一生懸命に取り組んだこの時間、経験は、彼らの中にしっかりと残るはずです。

私たちができることは、疲れて帰る彼らを温かく迎え安心して生活できるようにすることだと思います。ともすれば水面下で、寮生同士の力による上下関係が作られたりします。何かしらの虐待を受けてここへ辿り着いた人同士の生活の中で被害者と加害者をつくってしまう構造は、あまりにもやり切れません。一人一人との対話を大切にして、できるだけ、

互いに認め合える関係を築きたいと思えます。

自立援助ホーム

倉吉スマイル

寮長 田村 崇

倉吉スマイルは関金町の山口という、車で数十分走れば岡山県という県境のとてもどかな地域にあります。子どもたちはそんな環境の中、地域の方々に見守られながら日々の生活を送っています。

九月の下旬に地域の大運動会が開催されました。年配の方が多い地域なので、子どもたちはフル回転で数々の競技に選手として出場し、大活躍でした。そして、なんと総合三位の成績を収めました。「若い力のおかげだね」などなど地域の方々にたくさん温かい声をかけてもらいました。「今日は〇〇君はおらんだか〜?さみしいな」と〇・Bの子のことを気にかけてもらったりしました。地域の中に溶け込んでいっている、倉吉スマイルを実感できたエピソードでした。

おまけですが、子どもたちの大活躍のおかげで、参加賞として洗剤など生活用品もたくさんゲットできました。感謝感謝です。

地域若者サポートステーション事業 とつとり若者 サポートステーション

臨床心理士 川 端 江 美

とつとり若者サポートステーションは「働きたい」「社会参加したい」思いを持ちつつも、「自信がない」「何から始めていいかわからない」など、求職活動や進路への悩みを抱えている若者（おおむね十五〜三九歳）とその家族を対象とした相談支援機関です。

支援内容は相談を中心にグループワークとジョブトレーニングを実施しています。

相談は、キャリアアカウンセリングと心の相談に分かれており、キャリアアカウンセリングはこれまでの経験や興味のあること、得意なこと、苦手なことなどをお聴きしながら、就職や将来について一緒に考えていく相談です。心の相談は「対人関係が苦手」「自信がない」など、就職や社会参加に向けての悩みをお聴きして整理するお手伝いをしています。現在は、鳥取駅南にある当所への来所のみならず、中部・西部での出張相談、鳥取緑風高等学校への訪問相談を定期的に行い、定着しつつあるところです。

グループワークは、少人数で同じ作業や活動することにより、「コミュニケー

ションやリラクゼーションの方法・就労への基礎的な技術などを身につけることに加えて、新たな興味のある分野や得手不得手の発見の機会として提供しています。

ジョブトレーニングでは、興味のある仕事や業務を実際に見学・短時間の体験・現場の方の話を聞くことによって、その仕事を理解し、具体的なイメージを持つことを目的としています。

このような支援内容を自分のペースで利用してもらうことにより、自分らしい生き方を見つけていただくことを目指しています。

当所は今年四年目を迎え、来所のべ人数は年々増加しており、二十年度約一千名、二十一年度約一千五百名、二十二年約二千五百名、今年度は上半期だけで一千三百名を超え、毎月百名以上の方が利用されています。

当所の利用を終えた方の中には、求職活動に向かわれる方、就職される方、高校や大学に進学される方、福祉サービスを利用される方と、選択される自分らしい生き方はさまざまです。スタッフとして、その方らしい人生を見つけるということ大切な時期に立ち会わせてもらえることは重責でもあり、喜びでもあります。四年目の今、一人ひとりの個性やペース、

ニーズを大切にして、驕ることなく、真摯であることの大切さを改めて感じています。

当所はまだまだ課題も多いのですが、多くの方と関わらせてもらう中で、連携する他機関も増え、徐々に周知されてきています。今後はさらに当所を必要としている若者や家族に届くよう日々、邁進していきたいと思います。

退所児童等アフターケア事業 ひだまり

相談支援員 山 中 捷 二

今年、四月より「ひだまり」でお世話になっていきます。この事業は昨年まで立川町に事務所を置き、中嶋君、吉田君を中心に奔走されて来られました。今年度は事務所も吉方温泉に移り、一般社団法人として中嶋進一理事長の下、新たな決意で取り組みます。

中嶋理事長が目指す「ひだまり」の役割は「社会への架け橋」です。成人すると守ってくれる場所が無くなること。不況下の職探し、住まいの保証人、家族関係の悩み、社会の不平等を実感する等、話を聞いて解決するには時間もかかり、悩むことも多々ありますが、その現状に中嶋理事長と共に取り組んでいます。

一方、社会的養護の当事者グループ「レインボーズ」においては、池田会長によるブログの成果もあり、各会員が協力して活動しています。月例の誕生会を兼ねた食事会、施設（鳥取こども学園、光徳子供学園）のバザーへの参加、出店バーベキュー、野球を通じての交流など、活発に意見交換しながら活動しています。また、十月には「レインボーズ」副会長の太田垣君の企画により「アルコバレーノ祭」という児童養護施設支援のためのチャリティーイベントも開催され、大盛況でした。協力、支援して頂いた多くの方に感謝申し上げます。

社会的養護を取り巻く環境も日々変化していますが、今後も当事者の声を支援者の方々や行政の場へ発信し、携わる者の一人として、この輪が広がっていくことを願っています。



心より感謝し、ご報告申し上げます。

敬称略

氏名	氏名	氏名	氏名
(国)乾 医 院 (株)岩 田 兼 商 店 (株)中 井 脩 刈若桜町観光開発事業団 小林昌司 (有)因幡安田ひまわり保険 (有)造園土木 植清園 大塚蔵 朝倉野井川上田澤北太岡奥加川河木草小小齋澤清杉芹大竹田田タニグチヘアサロン 谷口義明子代鳥取いなばライオンズクラブ鳥取県東部総合事務所福祉保健局鳥取市歴史博物館鳥取民医連DANS実行委員会西尾茂・美智子規史雄子子信畑林岩福福部北中ブロック子ども福祉部会一同豊子晃	(国)さとに田園クリニック 太田匡彦 (株)楠城屋商店 濱崎圭祐 (株)二 シ オ (有)あすなろ会 高草あすなろ 片山義継 (有)家電のきのした (有)谷口製麺 谷口頼雄 安池住上川経哉成 石市谷白江大岡沖小叶河川木蔵小才坂下浄杉曾田竹伊田谷田つ鳥取医療器(株)鳥取国府更生保護女性会鳥取白バラ乳販(株)豊福村孝建西信馬原平富ま松三ご岡木京康	(国)竹内内科医院 竹内一昭 (株)コ タ ニ (株)プレマスペース 大家祐子 (社)別府平和園 近藤功 (有)岸田ガラス店 岸田賢伸 P Cサービス鳥取 西田淳子 有池磯乾岩内大岡沖懸神川岸木倉吉市小齋坂柴正勢ノーモバイルディスプレイ鳥取事業所社員會高建伊田玉中国七宝協会岡垣七宝研究所鳥取金物親交会森下耀雄鳥取市家庭教育相談員協議会鳥取東更生保護女性会寺谷さくら鳥西山玲由利恵西村橋本外科医院橋本英宣久雅笑・みどり彦尋子二庵子二	(国)たなか小児科 田中清 (株)さんれいフーズ 大谷和雄 (株)ホンダカーブ石見 河野良範 (有)イナバ葬祭センター (有)仕出し料理やまとと 秋崎塚坂谷上里川石本田女本口下力林藤木田城北地区民生児童委員協議会瀬大雲院地藏盆子供夜竹竹田谷民束天鳥取教会愛真幼稚園合同バザー鳥取市仙教会鳥取南更生保護女性会小宮山富美子一修長谷川恭子(故人)敬二郎子巖眞子枝枝妙元寺明里好弘

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
百 村 眼 科 医 院	森 澤 直 義	盛 田 和 子	安 本 良 栄
矢 田 ひ か り	山 口 登 貴 子	山 下 孝 子	山 下 弘 弘
山 根 一 夫	山 根 浩 子	山 本 静 彦	山 本 智 紀
山 本 博	ゆうわ総合法律事務所	湯 村 正 仁	吉 田 北 眞
米 村 友 孝	米 本 哲 人	ラ ス ベ ガ ス 智 頭	若 草 学 園
若 草 学 園 職 員 有 志	渡 辺 隆 夫	渡 邊 哲 次	藤 野 村 戸
慈 眼 寺 三 子	な か お 会	松 永 陽 五 郎	百 穴 無 名
小 原 隆 澄	湖 真 流 空 手 道 湖 松 会	山 本 源 五 郎	
光 田 澄	ダイヤモンド電機(株)	富 山 佳 代	

物 品 寄 付 者 (2011. 6～11)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
(株) に し お	(株) ふるさと鹿野 飯田伊知郎	(株) ヤマネ機材 山根茂	(株) ルートシー 小谷裕雄
U F O 秋 里 店	U F O 扇 町 店	U F O 安 長 店	愛 真 幼 稚 園
池 本 恵 美 子	い さ み や 商 店	稲 田 晃 一	太 田 垣 茂
岡 垣 博 子	奥 本 茂 雄	海 藤 ひ ろ み	倉 光 真 由 美
黒 川 和 子	桑 本 茂 雄	財団法人 資生堂社会福祉事業団	坂 本 隣 寺
佐 々 木 宙	立 川 町 4 丁 目 町 内 会	ス リ ー バ ー 鳥 取 店	大 田 中 昶
竹 内 小 四 郎	土 肥 洋 子	伊 達 直 子	鳥 取 県 立 青 谷 高 等 学 校
手 皮 小 四 郎	鳥 取 市 立 宮 ノ 下 小 学 校 5 年 生	鳥 取 教 会 シ オ ン 会	中 島 慎 介
鳥 取 更 生 保 護 女 性 会	日本画グループ鳥 白岡文江	中 川 康 恵 春	浜 田 恭 子
南 條 芳 浩	フィリップモリスジャパン(株)	福 田 真 子	福 田 恭 子
パ ン ド ラ の 箱	ふるさと手話雄志会 藤原常十郎	ポラーノ広場 玉寄博子	マイウェイ 谷口常雄
袋川をはぐくむ会 栗嶋道和	水 杉 憲 枝	柳 田 次 郎	大 樹 寺
前 場 五 朗	中 川 み か	無 名 氏	
N P O 法 人 和 の 会			

新! ミュージック・フェスティバル2011

11月19日(土)鳥取こども学園において、鳥取学生赤十字奉仕団主催の「新! ミュージック・フェスティバル2011」を開催しました。



このミュージック・フェスティバルは、約40年前、クラシックや歌謡曲を聴く「レコードコンサート」としてスタートし、「学園の子どもたちと音楽を通して交流しよう」と、現在では、歌をうたうことを通して団員と子どもたちが触れ合うかたちとなり、「新! ミュージック・フェスティバル」として開催しています。

当日は、開場とともに、友達の歌を聞こうとたくさんの子どもたちや職員の皆さんが来場くださいました。ステージに立って歌う子どもたちは、ほほを紅潮させながら少し緊張した様子でしたが、元気できれいな歌声を響き聴かせてくれました。また、手作りのゲゲゲの鬼太郎の衣装で出演する子どもたち、おどりを披露する子どもたちと、今年も、様々なパフォーマンスが見られました。こうした雰囲気の中で、会場からは自然に拍手が湧き起こり、出演者と会場が一体となり、あたたかい雰囲気の中で閉演しました。

開催にあたりご協力いただいた職員の方々、参加していただいた子どもたちに感謝いたします。本当にありがとうございました。



鳥取学生赤十字奉仕団

会費・寄付金は下記へお願いします

鳥取こども学園後援会事務局：〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取こども学園内

☎ (0857) 22-4206・21-9551 FAX 23-0242

振込口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 尾崎淑子

振込口座：郵便振替 01490-9-9106 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3422812
鳥取銀行本店 普通 7645611

お 願 い

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただけますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。